



2015年2月15日発行

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

立野ダム仮排水路 トンネル工事を中止しよう！



立野ダム仮排水路工事の状況 2014.11.22撮影

昨年11月26日、立野ダム仮排水路トンネル工事の安全祈願祭が行われたと報道されました。住民や報道機関にさえも伝えずに、また住民が要請してきた立野ダム説明会も一切開かぬままに、国土交通省は秘密裏に11月初めにすでに着工していたのです。

仮排水路トンネルとは、立野ダム本体をつくるために、ダム本体の左岸側に長さ480mのトンネル（直径約10m）を掘り、白川の流れを迂回させるためのトンネルです。

事業中止となった川辺川ダムでは、仮排水路トンネル工事は1999年に完成していました。

その後の長期間の運動を経て、2008年に蒲島知事は川辺川ダム建設反対を表明したのです。

立野ダムの仮排水路トンネル工事が完工するまでに3年半が予定されています。その間に世論を盛り上げ、未来の子どもたちのために立野ダム建設を中止させましょう！

●国土交通省に抗議文を提出

国土交通省が秘密裏に立野ダム仮排水路トンネル工事に着手したことに対し、12月19日に立野ダム工事事務所を訪れ、抗議文を提出しました。

蒲島知事も熊本県議会において「立野ダムについては、国土交通省に説明責任を果たすよう求め続けます」と発言しています。抗議文で私たちは、国土交通省が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダム仮排水路トンネル工事を中断することを求めています。



国交省に抗議文提出 2014.12.19

●立野ダムをめぐる動き 2014年10月～2015年1月

- 10月18日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通り）
- 10月26日 世界の阿蘇に立野ダムはいらない大集会&パレード
- 10月28日 熊本市長選挙候補者への立野ダム問題に関する公開質問状の回答を公表
- 11月1日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通り）
- 11月26日 国交省が立野ダム仮排水路トンネル工事の安全祈願祭を開催
阿蘇中岳が火山活動を活発化
- 11月27日 阿蘇の世界文化遺産認定に関する要望書を県知事に提出（熊本県文化企画課）
- 11月28日 NPO 法人熊本自然災害研究会で立野ダム問題と白川改修について研究発表
- 12月19日 国交省に立野ダム仮排水路着工に対する抗議文を提出
- 1月24日 春竹コミセンにて立野ダム問題学習会
- 1月31日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通り）

●ストップ立野ダム大集会&パレード

昨年10月26日、立野ダムの仮排水路着工を阻止するために、初めて屋外での大集会を開き、熊本市中心街をパレードしました。熊本城近くの高橋公園で開いた大集会には約150名の参加者があり、白川の上流から下流までに住む住民が、さまざまな立場から立野ダム建設中止を訴えました。

その後、参加者各自がプラカードなどをもち、新市街入り口までパレードしました。参加された皆様、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



高橋公園でのストップ立野ダム大集会



パレード(市役所前) 2014.10.26

●熊本市長選挙候補者への公開質問状

11月16日投開票の熊本市長選挙に立候補を表明した、石原やすなりさん、大西一史さん、下川寛さん（五十音順）に、立野ダム問題に関する公開質問状を送付しました。回答が出そろった10月28日に各報道機関に配信するとともに、当会ホームページとフェイスブックでも公開しました。

立野ダム建設は、熊本市民にも大きな影響を与えるにもかかわらず、これまでの熊本市政は住民の声に耳を傾けようとはしませんでした。幸いなことに、今回の立野ダムに関する公開質問に対する回答を見ると、3名の候補者とも行政と住民の対話の必要性を述べておられます。その中から大西一史さんが当選されました。新熊本市長が住民と対話し、立野ダム計画の問題点を把握され、今後の白川の川づくりに反映されることを望みます。

●阿蘇の世界文化遺産認定に関する要望書提出



熊本県に要望書提出 2014.11.27

「阿蘇地域が世界文化遺産に照準」と、昨年11月2日付の熊本日日新聞で大きく報道されました。大きな期待を寄せるものですが、大きな懸念があります。それは、阿蘇の玄関口とも言える立野峡谷に、巨大ダムがつくられようとしていることです。

阿蘇外輪山が立野で切れて、カルデラ湖の水が流れ下り、カルデラのなかで人々は耕し、生活を始めました。立野は「火山と人との共生」のルーツにあたる大切な場所です。白川郷など、過去に世界文化遺産に認定された地域の取り組みを見てみると、地域一丸となって地元の景観や自然、文化などを守り、

維持しなければならないことが理解できます。

世界遺産には、その「普遍的な価値」についての保護、保全の体制がどうかということが重視され、登録後も、5年に1度の審査を受けることとなります。その結果で登録の抹消もあり、ドイツのドレスデン・エルベ渓谷は橋が架けられたため、2009年に世界遺産リストから抹消された例があります。世界文化遺産登録を目指す阿蘇にとって、立野ダムは絶対につくってはならないものです。

そこで11月27日、熊本県知事あてに「阿蘇の世界文化遺産認定を台無しにする立野ダム事業再考を求める要望書」を提出し、立野ダム計画について熊本県として再考することなどを要請しました。

●進む白川の河川改修

2012年7月の九州北部豪雨で、白川流域は記録的な豪雨に見舞われました。この洪水を検証すると、浸水被害を受けた箇所は河川改修が完成していない地区ばかりであり、私たちは白川の河川改修の早期実現を、国や県に繰り返し要請しました。

その後、河川改修は急ピッチで進み、ほとんど手つかずだった小碓橋から上流の熊本県管理区間も、改修工事が一気に進んでいます。国土交通省は、河川改修に加えて立野ダムを建設しないと、白川は安全な川にならないと主張します。しかし、立野ダムは流域に安全をもたらすどころか、むしろ災害源になることが専門家からも指摘されています。流域の安全を確保するためには、問題だらけの立野ダムより河川改修を進めるべきです。



改修工事が進む小碓橋下流右岸 2014.12.30撮影



改修工事が進む龍田陳内4丁目 2015.2.6撮影

阿蘇火山が活発化 火山地帯に立野ダムつくって大丈夫？



噴火する阿蘇中岳 2015.1.18撮影

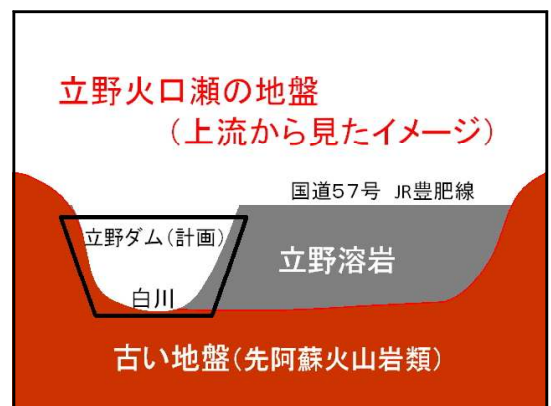
昨年11月26日から、阿蘇が火山活動を活発化しています。くしくも同じ日に、立野ダムの仮排水路トンネル工事の安全祈願祭が行われたと報道されました。

立野ダムは、阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野峡谷に造られようとしている、高さ90mもの穴あきダムです。なぜ立野峡谷で外輪山が切れたかという、外輪山の中で最も地盤が弱かったからだと考えられます。そのような場所に巨大なダムをつくって、大丈夫なのでしょうか。

立野ダム建設予定地右岸の地盤は、阿蘇火山から流下してきた立野溶岩です。一方左岸は、右岸側とは全く違う先阿蘇火山岩類による地盤です。立野峡谷一帯には、多くの断層が集中しています。立野ダムの完成後に阿蘇の地震活動が活発になり、断層が動いて、ダムの右岸と左岸で地盤が違う動きをした場合は一体どうなるのでしょうか。

住民が求めてきた住民向けのダム説明会さえ開かずに、国土交通省は立野ダム建設を推し進めようとしています。火山地帯に巨大なコンクリートのダムをつくって本当に安全なのか、国土交通省は自信を持って説明できるのでしょうか。

そこで、2月28日に火山物理学者の須藤靖明氏をお招きし、緊急学習会「阿蘇火山と立野ダム」を開きます。是非ご参加ください。



編集後記 熊本市は、大津町、西原村、南阿蘇村に5年間で23万本の広葉樹を植え、水源かん養林「100年の森」にする森林整備協定を3町村と結びました。川の上流域に広葉樹を植える取り組みはすばらしいことです。維持管理費を含めて経費は4億円だといひます。一方で、阿蘇外輪山の唯一の切れ目に造られようとしている立野ダムの総事業費は917億円。来年度予算は35億円にもものぼります。立野ダムに毎年費やされる、巨額の予算の10分の1でも毎年山林に投入できれば、荒れた人工林の間伐などの、白川流域の森林整備は大いにはかどり、山の保水力は向上し、災害を未然に防ぐこともできるでしょう。また山林への予算投入は、地元になたな雇用も生み出すでしょう。今求められているのは、土砂に埋まり、撤去の必要のあるコンクリートのダムを造るのではなく、荒れた森林を間伐するなど、「緑のダム」を広げることではないでしょうか。(N.O.)